

## 令和 7 年度 北栄町防災会議 実施報告書

日時:令和 8 年 3 月 25 日(水)午後 1 時 30 分 ~ 午後 2 時 30 分

場所:大栄農村環境改善センター

出席者:手嶋俊樹会長(北栄町長)、防災会議委員、事務局(総務課情報防災室)ほか

### 1. 開会

定刻に至り、事務局により「令和 7 年度 北栄町防災会議」の開会が宣言された。

### 2. 会長あいさつ(手嶋町長)

会長である手嶋町長より、昨今の災害対応と次年度の決意について以下の通り述べられた。

- **地震発生時の初動に関する自省:**令和 8 年 1 月 6 日に発生した島根県東部地震の際、町長自身が米子駅で被災した。これまで「机の下に潜る」と啓発してきた立場でありながら、実際の発災時には机を抑えて動けなくなるなど、初動の難しさを痛感した。この経験から、形だけの訓練ではなく、いざという時に「身に付く訓練」へと改善する必要性を強く訴えた。
- **防災インフラと情報発信の強化:**令和 7 年度に導入した防災アプリが有効に機能しており、特に大雪時の情報配信において実績を上げている。また、ポータブル電源(Jackery)や生活必需品が詰まった「G72BOX(72 時間分の備蓄)」の協定締結など、ハード・ソフト両面での備えが進んでいることを強調した。
- **予算と重点施策:**令和 8 年度当初予算において、住宅耐震化支援を前年度の 3 倍規模に拡充。また、避難所となる小中学校体育館への空調設備設置の検討を開始するなど、「暮らしの安心」を最優先事項として掲げた。

### 3. 報告事項

#### (1) 令和 7 年度 災害等対応状況について

事務局より、今年度の主な災害対応が報告された。

- **1 月 6 日 地震(島根県東部地震):**北栄町で震度 4 を観測。警戒本部を設置し、住宅の壁のひび割れや石垣の崩落を確認。
- **1 月・2 月 大雪対応:**数次にわたる大雪警報に対し、警戒体制を敷いた。特に 2 月 8 日の大雪は衆議院選挙の投開票日と重なったため、各投票所の除雪作業を迅速に行い、選挙運営の維持に努めた。

#### (2) 令和 7 年度 町防災事業の実施状況について

- **総合防災訓練(9 月 7 日):**北条農村環境改善センターにて実施。避難所設営訓練を通じ、2メートル四方の簡易テントを実際に配置した結果、当初想定していたよりも収容人数が限られる(80~90 張り程度)といった具体的な課題が明らかになった。
- **自主防災組織への支援:**40 自治会に対し訓練活動費を、30 自治会に対し防災器具(消防ホース等)の購入費を助成した。
- **防災士の育成:**新たに 6 名が資格を取得。累計 70 名の防災士が町内で活動中である。
- **情報配信アプリの普及:**令和 8 年 3 月 1 日時点で登録者数は 1,729 人に達し、当初目標の

1,600人を突破。外出先でも防災無線が聞ける利便性が評価されている。

#### 4. 協議事項

##### (1) 令和8年度町防災事業(取組予定)について

次年度に予定されている主要事業が協議され、承認された。

- **2大イベントの開催:**
  1. **鳥取県総合防災訓練(10月4日):**北栄町が会場となり、県中部地震10年の節目に大規模な合同訓練を実施。自衛隊ヘリや消防関係機関と連携し、住民の避難意識向上を図る。
  2. **ぼうさいこくたい 2026 in 鳥取(10月17日・18日):**日本最大級の防災イベントが倉吉市周辺で開催され、当町も積極的に参画する。
- **個別支援の強化:**避難行動要支援者名簿を事前に自治会へ提供する条例に基づき、実際の避難訓練や「支え愛マップ」作成への活用を促進する。
- **備蓄品の計画的購入:**簡易テントや折り畳みベッドを継続購入し、目標の300基体制を目指すとともに、液体ミルクや保存食の更新を進める。

#### 5. 意見交換

委員および各機関より、多角的な提言や情報提供が行われた。

- **広域防災拠点(道の駅ほうじょう周辺)の整備:**

鳥取県が行う大規模地震や豪雨に備えた拠点整備計画が説明した。隣接地に100m×100mの大型ヘリポートを整備し、ヘリによる人員(約50名規模)や重機の搬送を可能にする。県において令和9年度末の完成を目指し、騒音調査や地質調査が順次進められる
- **インフラ各社の取り組み:**
  - **中国電力ネットワーク:**2月の大雪時、倒木や竹の重みによる停電が発生し、町による除雪で、停電解消(米里)ができた。町内17箇所(5箇所倒木、12箇所倒竹)で停電リスクが確認された。これを防ぐため、行政と連携した「事前伐採」の重要性を強調した。
  - **NTT西日本:**災害時のデータ通信確保のため、ポータブル通信機器の配備や、AIを活用した被災予測メソッドの提供について紹介があった。
  - **県中部総合事務所:**衛星通信(スターリンク)の配備のほか、DMATとの連絡体制の整備について報告があった。
- **地域防災の活性化:**
  - 「平日の昼間、働き手が不在の時こそ誰が動くのか」という課題に対し、4月の自治会長会で訓練の好事例を共有する時間を設けることが提案された。
  - 大島自治会の事例として、図上訓練のほか、家に誰がいる時間帯かを想定した「条件付与型」の具体的な避難訓練が有効であると報告された。
  - 消防団から会社員の団員など、平日日中の対応人員不足の懸念が共有された。

#### 6. 閉会

全ての議事を終了し、今後の連携強化を確認し閉会した。